

尾道学資料 : 画家「小林和作」の書簡資料

荒木, 正見
総合文化学会 : 会長

<https://doi.org/10.15017/4370216>

出版情報 : 総合文化学論輯. 11, pp.37-38, 2019-11-01. Japan Institute for Comprehensive Cultural Studies

バージョン :

権利関係 :



尾道学資料

画家「小林和作」の書簡資料

※本誌の特徴として、学会員がそれぞれに研究・教育・社会活動に携わる記録や資料を必要に応じて格納し、広く社会に公開して文化発展の助けにするという側面がある。荒木正見は「尾道学」の必要性を初めて唱えたものとして、手元に多くの尾道関係資料を有するし、また現在も活躍中の尾道学研究会のメンバーも貴重な資料収集に当たっている。それらの多くは現在編纂中の新規「尾道市史」のために尾道市に収納されつつあるが、中には収納されにくい資料もあるし、重なっても本誌にも残しておきたい資料もある。それらを柔軟に格納できる本誌の特徴を生かして尾道学資料を格納していく。本号では画家小林和作の書簡資料を掲載する。

前号にも述べたが、画家小林和作（明治21年(1888)～昭和49年(1974)）は、山口県秋穂に育った後、京都、東京を経て昭和9年(1934)に尾道に移住し86年の生涯を閉じるまで40年間を尾道で過ごした。

前号に引き続き、小林和作のご親族から書簡資料を半永久的に残したいと、荒木正見宛ご依頼があったため、本誌に掲載する。

宛先は弟泰九郎(1976.6.21 逝去)である。内容は、そのすぐ下の弟英十郎(1971.2.8 逝去)の死去に当たったもので、小林和作のひととなり、兄弟に対する愛情、など様々な人間的側面が感じられるものであり、資料としても貴重なものである。快くご提供賜ったご親族に心より感謝申し上げます。(荒木正見)

並十郎の死んがお前の力へは通知があつたと思ふ
又三休住所と轉々その後ろから並十郎へは住所がわかる
お尋ねから又三休へはオレから知りし
並十郎は肺病であるこの病氣は容易に進行が早くと
ので精密検査を乞ふて肺病とわかつてもう一は目には死
んでゐる しかしいかに死ぬものなら長く寝て苦しむより
は早いともよかつたをように思う
葬式へはオレは行かざつたが オレは誰の葬式へも
大体行かぬ方針である八十才を越へると老人が殊に寒
い時に行く事はあつまい、や息つこいる
葬式へ行かばオレなほその家の二戸主より役目が
重くなり何百人の人も含めねばならぬと烈しく
お尋ねするさうだ
並十郎の方で並枝と二人の息子共は元來が軽薄な
性所爲の者共だから以後は小林家との関係がどうな
るかかわからぬが困つて者である

二月十三日

和作

以上

春の仲へ